

直前期の注意点

茗溪塾塾長 長谷誠基

冬期講習・正月特訓が終わり、いよいよ入試本番になります。この教務便りが届くころには中学入試では埼玉県の入試が佳境に入り、高校入試は千葉県の私立高校入試に続き、東京の推薦入試、大学受験では共通テストが目の前です。この時期になると、「このままで大丈夫か？」という不安感から色々考えてしまい、あまりよくないことをやってしまうこともあります。ここでは直前の注意点を書いてみたいと思います。

まずは直前期にやらない方がいいことを4つ挙げておきます。

① 普段と違う生活スタイルになる。

これは中学入試に多いのですが、直前期は感染症対策などから学校を休んで勉強するという場合もあります。このとき、朝起きるのが遅くなったり、普段と食事の時間が極端にずれたりするのはよくありません。普段通りのリズムで生活することを心がけましょう。

② 新しい参考書や問題集に手をつける。

直前に新しい参考書や問題集を始めると、過去問以外にやり直しをしなければいけない問題が増えることになります。結果、すべてのやり直しが終わらないまま、かえって不安を強めて入試に入ってしまう。書店に行くと「〇〇日完成」など魅力的な言葉が並びますが、本当にその日数で完成するなら今までの苦労は何だったの？ということになります。どのみち不安はあっても今までやってきた問題集を再度やり直すことが一番いい方法です。

③ やり直しをしないで問題ばかり解く。

直前は過去問演習が重要ですが、過去問を解くばかりで、やり直しをしないのでは意味がありません。1つ解いたらやり直しをして次に進む。ということを繰り返していくのが大切です。やり直しをすることで弱点の克服にもつながります。

④ 弱点補強ばかりに取り組む。

今までの模試や過去問をやると、どうしても弱点に目が行きます。あとの単元ができるようになれば…という思いから、弱点補強に時間をかけてしまうことはよくあることです。しかし、今までも弱点の勉強はしてきたはず、でも克服できていないのですから、完全に克服するには相当の時間が必要です。そればかりに時間をかけていると、ほかの教科の勉強がおろそかになり、せっかく取れていた教科の得点までも落とすことになってしまいます。弱点の勉強は必要ですが、そればかりにならないようにバランスをとって勉強しましょう。直前期は逆に得意を伸ばす方向にもっていくのもよいと思います。得意教科で10点伸ばす方が苦手教科で5点伸ばすよりも簡単です。

塾の勉強を中心にバランスよく学習することを心がけましょう！